

研究課題番号	【1MF-2305】
研究領域	統合領域
研究課題	「地域脱炭素に向けたリベラルアーツ環境教育の展開と検証手法の構築」
研究代表者（所属）	木原久美子（熊本高等専門学校）
研究期間	2023年度～2025年度
研究キーワード	地域脱炭素、リベラルアーツ教育、デザイン思考、『正答』のない問題、思考試行プロセスフロー図

研究概要と進捗状況（中間の2024年度時点）

- 本研究では、政府の方針に基づくカーボンニュートラル実現のため、地域脱炭素を主要課題のひとつとして位置づけ、脱炭素に関するリベラルアーツ教育（「正答がない問題」を与え、解決させる方法）による環境教育ならびにその検証手法の構築を目的としている。
- 高等専門学校の学生に対して在籍中の複数年にわたってリベラルアーツ教育を実施し、専門家の出前授業[図1]とデザイン思考（ユーザーのニーズ・視点で課題の本質に迫る思考法）の実践[図2]を並行して繰り返すことにより、正答がない問題に対応可能な人材を育成することを試みた。最終成果発表会を実施し、表彰により自己分析を促している[図3]。
- 学生の地域脱炭素に対する取り組みや成果を客観的に評価する団体として「八代地域脱炭素リベラルアーツ教育評価・支援ラボ」を設立した。この団体は学生の活動に対して「螺旋的に上昇するPDCAサイクル」を回す後押しをすることで、地域脱炭素の課題の創造的な解決への糸口を探す。
- (2)(3)による人材育成手法を1パッケージとして確立することを目指している。このモデル[図4]を横展開することで、他組織・他地域でも効果的に人材育成ができると予想される。



図1 出前授業の様子（講師：環境省九州地方環境事務所）



図2 デザイン思考に基づいたリベラルアーツ教育の一例



図3 最終成果発表会(KNIT-SPS2023)における表彰

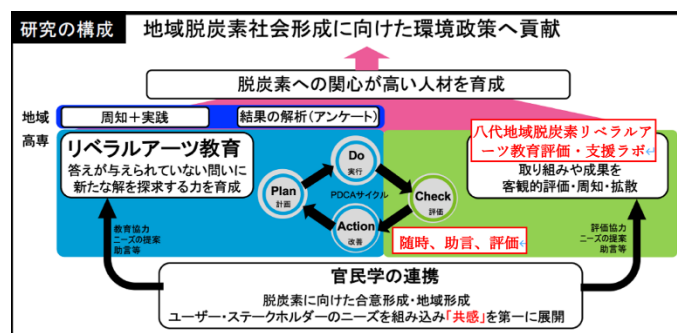


図4 地域脱炭素に向けた人材育成・支援モデル

環境政策等への貢献

- 本研究の成果により、正解が定まらない問題に対応可能な人材の育成には、「専門家による出前授業」と「デザイン思考の実践」を並行して繰り返すことは有効である。
- 授業では、心理的にポジティブな要素の中で行うと効果的である事がわかってきた。特に、挑戦や試行への失敗や考え直しに寛容な環境と評価は、人材の成長に必要な要素である。
- 人材育成の「八代モデル」を確立し、これを1パッケージとして横展開することで、他地域においても地域脱炭素を含めた環境問題に対応できる人材を育てることが可能となる。